

## 朝日地域で大雨被害 砂川や田麦俣で土砂崩れ、崩落



朝日地域の県道土砂崩れ



田麦俣市内の道路崩落



同家屋隣接の土砂崩れ

1日午前9時20分頃

朝日地域の県道鶴岡村上線、砂川と大針の間で山側法面の土砂崩れが発生し、全面通行止めとなりました。

復旧作業が行われ、同日午後0時30分に片側交互通行に切り替わりました。

## 鶴岡市「まちづくり塾」 鷺畑山古墳視察に

9月1日午後、20人が訪れ郷土研究サークルが応対しました。

青山崇会員が説明し、穂積会長が同行。上林幹夫会員が草刈など事前整備をしました。

青山会員は、配布資料をもとに古墳の概要を説明し、「日本海側北限の古墳」と注目をえるために解説してきたが、羽黒山の開山や稲

通りがかつた住民から党市議団に通報があり、菅井巖議員が現場に駆け付けました。

8月30日から31日にかけて降った大雨による影響とみられます。

一方、朝日地域の田麦俣でも1日、住宅隣の土砂崩れと道路の一部崩落が発生し、関徹県議が現地に駆け付けました。

作の始まりなど、地域の歴史との関係で調査研究することの重要性を強調しました。

古墳時代の土師器が出土している三和と千原を経由し、発掘調査を行った1号墳を視察。その中で、棺などが埋葬されている墳墓本体を何故発掘しなかったのかなどの質問などが出されました。

## 田家即事

老犬性来愛圃田  
荷鋤播種又今年  
陽春負未理常務  
秋気農村稔盛天

老犬 性来 圃田を愛す  
鋤を荷い種を播く又 今年  
陽春 未を負いて常務を理むれば  
秋気 農村 稔盛の天

## 城貞（藤の花）

年をとったこの人（自分）は、生まれつき田や畑の仕事が好きだった。鋤をかついで耕し、種を蒔いて今年も又去年のように同じ仕事をする。うららかな春の初めから、鋤をかついで農作業をきつちりと行えば、秋の季節になって、今年の農作物はみよりの良い年になるのだ。

## 【絵を描く】 道半ば

加藤貞雄（山王町／上平形出身）

馬齢を重ねていつの間にか80代後半に入っ

た。近年、ITとかAIとかの言葉がマスコミ上に盛んに現れてきて、私などついていけない。

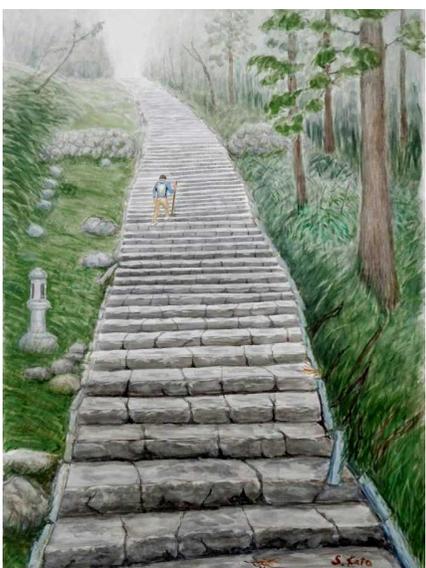
自ずと内向き志向になって、過去を振り返っては想いに耽ることがよくある。

そんなことを思っていた矢先、ふと浮かんで来たのが羽黒山の石段を登ってみようということだ。平凡な日常から脱して錆付いた感覚をフレッシュに、あるいは何か良いアイデアをと、微かな期待を抱いていた。

しかし、2446の石段を登るのは無理だ。まずはバスで頂上まで行って最も急だと言われる「三の坂」だけを登ってみようと考えた。「思い立ったが吉日」と、翌早朝、羽黒山頂行きのバスに乗り込んだ。山頂から下って「三の坂」の登り口まで辿り着く。見上げるとさすがに急だ。途中から緩やかに曲がって頂上は見えない。傍らの窪地に腰を下ろして一息つく。冷気が快い。さて登ろうかと立ち上がった時、ガヤガヤ

と人の声があった。大勢の高校生たちが私の前を通り過ぎて行く。ある私立高校の全校早朝登山だという。生徒たちの足取りは速い。「おはようございませう」と私に声をかけてはどんどん追い越して行く。一団が塊で登っている間は、これ幸い、と傍らに寄って休む。その繰り返しがしばらく続いた。私は一歩一歩をしつかり踏みしめながら杖を頼りに慎重にゆっくりと登っていった。その間、過ぎ去った日々の出来事が脳裏に浮かんだり、消えたりした。生徒集団の後方は三々五々に散らばっていて、最後の数人がハアハアと喘ぎながら登ってきた。頂上はまだ見えないが彼らに混じって一緒に登った。やがて覆う樹林の彼方、石段の尽きる所に頂上が微かに見えた。みんなで声をかけ合い励ましあいながら登りきった。それは自分のこれらを暗示するようでもあった。現実には足をつかりつけて励まし合っていていくことだ、と。

（絵は羽黒の石段登りを思い出して描いた）



# 中山道テケテク1人旅 25

「クソばばー」と漢字の女へん  
新町 齋藤留治

前回(7/29)は「山里のおばちゃん達」のタイトルで、旅の途中の木曾路(木曾路に限らず)で、おばちゃん達に受けたほんの一部だけの「おもてなし」に付いて書かせていただきました。

私は料理が苦手(面倒で)、まともに作れる料理は殆どありません。(しかし何でもかんでもごっちゃ混ぜに鍋に入れて作る料理は得意で、オーストラリアで同じ寮に住んだ方は美味しい美味いと食べてくれました。)

約1ヶ月に渡る一人旅では、民宿や定食屋等で食べて、無事京都まで歩き続ける事が出来ました。

この間「クソばばー」と悪態を付きたくなるようなおばちゃんには会いませんでした。

新聞紙上の投書欄で見つけた、「クソじじーと罵る若者を注意したら、逆にクソばばーと怒鳴り返された」という若者を、腹立たしくも思うと同時に、その若者は永遠に「ジジー」にはならないとも思っただろうかと思つくと、滑稽にも思われました。

話は変わりますが、猛暑でウンザリのこの夏、私はある所で「女へん」の漢字が羅列されているのを目にしました。

普段使っている「女

へん」の漢字、女は男より穏やかで(でない方もいるかもしれないが)、平和的だということに、人間性の悪い意味を表す漢字は殆ど「女へん」で作られているとのこと。

一例ですが、年若いて古びた女性の意から「姑しゅうとめ」、道理を犯すのは「姦かんまじ」(姦通など)、自分より勝っているのをうらむのは「妬そねむ」「嫉そねむ」、ウソや出鱈目でたらめは「妄みだり」と、女へんのオンパレード。

自民党の女性議員が「子どもを産めないのは生産性が無い」と放言して批判されましたが、同じ姓の身、少しはこんな漢字を見て立場をわきまえるべきです。

男は女より良い



わけでもないのに、何故か辞書を見ても「男へん」は無い。私には、漢字の自家の国には悪女が溢れていたものであろうか知る由も無いが、今、平和憲法の改悪を目論む「女へん」は、右翼ジャーナリストで日本会議の代表である桜井よし子さんです。以前どっかの新聞に、「全ての国の代表者に女性がなったら地球上から戦争は無くなる」と掲載されていました。桜井さんのような人が指導者になつたら大変な事で、戦時中に有った「国防婦人会」の再現社会になつてしまふでしょう。

## だまされては遺憾!

青山崇

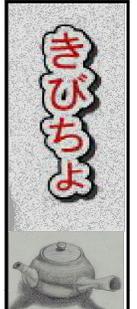
「民報藤島」連載の初めは、「町に心のオアシスを求めて」で、第1回は1998年1月、

「高橋俊二さんの絵画展を観る」であった。藤島の癒し探しである。以後20年ほど「藤島の地名」「私説藤沢周平」「しんぶん赤旗を読む」「改めて憲法を学ぶ」と連載した。

ひとえに読者の皆さんのご支援の賜物で、

た。「改めて憲法を学ぶ」の終、これまで続けてきた「連載」の終ともとれるような、苦渋の末の姑息な方法である。

戦後の一定の民主化で、平和の世に生存し「健康で文化的な最低限度」の生活が少しは保障されるようになった。しかし、次期臨時国会に政府与党は憲法改正を發議するといつた。前にも紹介したが、数年前から交流している仙台の女性Kさんの父親は職業軍人であつた。



### 住民の声を聴け

あんまりえつぺで、たながいねくなつたさげ、うだるつてが。そうはいくが。うだらいなさげ、たないでぎだんだから。とは、福島原発のトリチウムを含んだ水のことです。

▲3・11の地震で、電気が止まったために爆発を起こした東京電力の福島原発は、その日から動いておりませんが、地下水が湧き、これがトリチウムなどの放射性物質に汚染されているのです。この水が流れてこないように、土を凍らせることに時間と金を使ったが、ダメだったんでしよう。

大部分の水は、山の上から海に流していると言っています。▲汚染された水は先に記したように、危険だから捨てられないんだと言つて、貯蔵してき

たが、いつも「だまされた!だまされた!二度とだまされて戦争しては遺憾」と言っていた。自衛隊前線の警察予備隊の結成時、父に何度も誘いに来たがガンとして断つたといつた。安倍政治は「だましコンクール」を薦めて追つてみようと思つた。もちろん戦争体制にはウソ・謀略・脅し・独裁などがつきまとう。それらに触れることもある。

置き場がなくなつたから「海に捨ててもいいですか」というのが、にわかな公聴会です。▲やつと少しだけ操業できるようになつた漁業者は勿論反対で、14人が意見を述べたが、賛成者は一人で、「科学的データで影響がない状態を証明した上で、海洋放出するべきだ」と言つたこと。

▲研究者だといふこの方も、政府や東電がこの間やつてきたことを承知の上のことでしょう。今月の浄化後の水には、トリチウム以外の複数の放射性物質が残留していることが発覚しても、なんの説明もしていないんだ。

▲なるべく正確なことは教えないで、今になって、トリチウムは人体への影響が比較的少ないとか、薄めてから流すからとかで、一方的に押し切ろうとするのではないか、との報道だ。(石川)